会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2024 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第 1 回建築系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2024 年 7 月 22 日(月)15 時 40 分～17 時 00 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 9 階 901 教室
参 加 者	<p><外部委員:2 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>佐藤 剛 (一級建築士事務所 A-SA 工房)</p> <p>荻野 敦 (清水建設株式会社)</p> <p><内部委員:4 名></p> <p>甲田 竜雄 (専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長 兼 建築監督科科长)</p> <p>野上 和裕 (同 建築科科长、議長)</p> <p>鈴木 昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科长)</p> <p>山下 光成 (同 建築監督科教員、書記)</p>
	<p><系別分科会>(第二部)</p> <p>1.議長挨拶</p> <p>2.前回(系別分科会)議事録の確認</p> <p>3.意見交換</p>
討 議 内 容	<p>■建築監督科 分科会</p> <p>参加者</p> <p><外部委員></p> <p>佐藤 剛 (一級建築士事務所 A-SA 工房)</p> <p>荻野 敦 (清水建設株式会社)</p> <p><内部委員></p> <p>甲田 竜雄 (専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長 兼 建築監督科科长)</p> <p>野上 和裕 (同 建築科科长、議長)</p> <p>鈴木 昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科长)</p> <p>山下 光成 (同 建築監督科教員、書記)</p> <p>【野上】 建設現場の現状と省力省人化に向けた取り組み状況を踏まえた、次世代の建築技術者育成を行っていく上で求められる教育の在り方について議論していきたい。</p> <p>【甲田】 時間外・休日労働の削減や省力省人化を実現していく上で、ロボットやドローン等を用いた遠隔施工が今後普及していく流れを踏まえ、専門学校で教育しなければならないBIM関連技術について、現状と今後の見通しについて伺いたい。</p> <p>【鈴木】 BIM 関連技術の発展が目まぐるしい現状を踏まえて、学生に対して「何を」「どこまで」教えるべきか？</p> <p>【荻野】</p> <p>① ゼネコン業界の時間外・休日労働削減については、適正な工期と適切な工事価格を設定することで、健全な企業として成り立ちつつ、既存のリソースでプロジェクトマネジメントが可能であると考えます。</p> <p>② 今後 BIM は、工程計画、原価管理、見積作成などの全データが 3D モデルに一元化され、建物のライフサイクル全体を管理していく流れになっていくものと思われる。</p> <p>③ BIM で一元管理するには、従来の施工図を用いた現場管理を変えていく必要がある。</p> <p>【佐藤】</p> <p>① 建築科(2年課程)の場合、学習時間が短いため BIM 教育を深掘りすることは難しいと考える。</p> <p>② 建築を本質的に理解していない状況で BIM 教育を行うことは適切でないと感じる。</p> <p>③ 本質的な事が理解できた上で、BIM の基本的な概念や使い方を教えていくべきだと思う。</p> <p>④ BIM や関連アプリケーションの開発が進み、専門知識を持たない一般の方でも簡単に建築を扱うことができるまで技術革新が進歩しない限り、手書き製図の原理原則は教え続けていくべきである。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>